

## 知事との県民対話集会（朝日村）概要

- ・開催日時 令和5年3月28日（火） 午後2時30分から午後4時まで
- ・会場 朝日村役場 1階大会議
- ・参加者 県民26名、小林朝日村長、阿部知事、草間松本地域振興局長
- ・テーマ 農業振興について

### ・主な発言（要旨）

#### 【参加者】

・風食について、部屋に砂が入るなど被害が出ている。風食被害防止のため、麦の種子に対する補助拡大や支援制度の創設と風食発生により農家が悪者にならないよう情報発信をお願いしたい。

#### 【知事】

・先ほど、試験栽培をしているところを見てきた。試験を行っている限りでは、緑肥植物は使えそうだと期待している。取組内容を農家の方々と共有し、地域の皆さんと一緒に取り組んでいきたい。農政部には、風食は災害と思って対応するよう伝えている。

#### 【参加者】

・いずれは有機栽培にしていきたいと考えている。海外では禁止されている農薬を使用し栽培されたものが日本に輸入されているという話を聞いた。食の安全についてアピールをお願いしたい。

#### 【知事】

・農薬の日本の基準は甘いと思っている。これから世界と取引するには、今の基準では大丈夫か心配。農薬のあり方、食の安全についてはしっかり考えていく必要がある。長野県だけで考えるのではなく、国全体の制度を変えていく必要がある。

#### 【参加者】

・信州の環境にやさしい農産物の認証を取得したいが、多品目を栽培している農家だと申請書類が多く煩雑になってしまう。

#### 【知事】

・県への様々な申請手続きについては、書類が多くて大変とか手続きが面倒などと話を聞く機会はある。最低限必要なものはやっていかないといけないが、この書類のここが不要など具体的な提案があれば、ご意見をいただきたい。問題意識を持って考えていきたい。

#### 【参加者】

・小学校へ食材提供をしているが、高齢化により毎日供給することが困難。行政と連携して、地元食材を安定的に供給できないか。また、学校給食に有機栽培の野菜などを提供しているところもあると聞かすが、有機栽培は県内でどのように進んでいるか。

#### 【知事】

・安全安心な食材の子どもたちへの安定的な提供は、重要な話。どちらかというと、県よりは市町村から組み立てていくことがよいと思う。有機野菜をどうするかなどは、地域によって状況が違うため、学校や市町村ごとに考えてもらい、うまくいかないところを県が補完する方がいい。松川町は、行政、学校、農業関係者が一体となって取り組んでいて参考になると思う。

#### 【参加者】

・農業に興味はあるが、技術、土地、機械が揃えられず就農できない人がいる。初期投資も抑えられるため、離農者と就農希望者をマッチングさせるマッチングアプリのようなシステムを開発できないか。

#### 【知事】

・マッチングが必要という意見は山形村でも出ており、県内共通の課題。遊休農地を次の人へどう引き継ぐか、経営をどうしていくかは重要な問題。県が広大な農地をどうするかを考えるのは難しく、市町村でどうするか考えてもらいたいので、仕組みを考えないといけない。

**【参加者】**

・移住して就農しようとしても環境が整っていない場合がある。定着率を上げていくために、お金や機械だけでなく、住宅にも支援が必要ではないか。

**【知事】**

・農業に限らず、移住を考える際に住まいが見つからず諦めている人がかなりいることは、大きな問題。移住については、働く場所と住まいをセットで呼びかけているが、まだ不十分なのでしっかり取り組みたい。

**【参加者】**

・朝日村は、日本で一番野菜を食べる村と称して頑張っている。長野県を全国でダントツに野菜を消費する県にしてほしい。

**【知事】**

・海外へは、長野県の健康長寿の要因の一つとして野菜摂取量の多さを説明してきている。強みを活かす観点で考えていきたい。

**【参加者】**

・これまでは北海道にシェアを取られてきたが、今は輸送費のコストが上がり、大都市に近い長野県は優位になっており、チャンスではないか。

**【知事】**

・農業も産業なので、どこの市場で売るのが最適かを常に考えないといけないと思う。市場の開拓など、JAと各地域ごとで話をしたほうがいい。産地やJAの皆さんとしっかり考えていかないといいないと思うため、受け止めさせていただきたい。

**【参加者】**

・温暖化でこれまでどおりレタスをつくるのが困難になってくる。逆に言えば新しい品目をつくっていくチャンスではないかと思う。逆境を跳ね返す取組をお願いしたい。

**【知事】**

・温暖化で世の中が変わっている中で、別の市町村では、これからどういう作物をつくるべきか地域と県の試験場で考えてほしいという意見があった。温暖化はすぐには止まらないので、どうすべきか試験場と問題意識を共有したいと思う。

**【参加者】**

・野菜の価格が上がらず、出荷調整のため、ほ場廃棄をせざるを得ず、農家の仲間と会うと、今後何をすればいいか、農家を辞めようかといった話になる。

**【知事】**

・ほ場での廃棄は、何とかなくさなくてはならないと考えている。環境にもやさしくないと思う。有効活用や生産の数量等を考えていかなければいけない。価格が上がらない話については、農家の皆さんからは価格転嫁ができないという話を聞く。日本は物価が少しでも上がると大騒ぎするが、下がっても何も言わない。それだと経済が縮小するだけ。賃金も上がるし、物価も適切に上がるようにしていかなければならないのではないかと。様々なところから意見が出ているため、生産者、消費者、流通の方と一緒に考える場をつくっていく必要があると思っている。